

## 4 うるし採液調査（第3報）

予算区分：県 単  
担当科名：森林育成科

研究期間：平成 11～14 年度  
担当者名：小谷 二郎

### ．目的

県内産のうるし液の安定供給に資することを目的として，樹脂の増量に効果があると言われているエチレン（植物ホルモン）を誘発するエスレルの処理試験を試みる。

### ．試験内容

今年度は，エスレル 0.1%および 0.05%水溶液 300ml を樹幹注入して，無処理木との掻き取り量の比較を行った。樹幹注入は，マツノザイセンチュウ駆除のために使われる樹幹注入装置を用いた。掻き取りは 6 月 1 日から 10 月 8 日まで 25 回行った。供試本数を 3 本ずつとした。それぞれの処理区の平均胸高直径は，0.1%水溶液処理が 12.3cm，0.05%処理が 12.5cm，無処理が 12.3cm であった。

### ．試験結果

8 月 6 日から 10 月 8 日までの期間における 3 本のト - タルの採液量は，無処理で 345g，0.1%水溶液処理区で 335 g，0.05%水溶液処理区で 240g と処理による増量効果は認められなかった。0.05%水溶液処理区が他よりも少なかったのは，木による，うるし液の浸出しやすさの違いが関係していると考えられた。

### ．今後の問題点

樹幹注入による方法は効果がないと思われた。これまでの試験では，エスレルを表面に塗布する方法が最も効果的であると判断された。さらに，検討する必要があると思われる。